

【京都府福知山市】

実践的防災対応の取り組み



【岡山県奈義町】

奇跡のまちの少子化対策

総務建設常任委員会 副委員長 深貝 仁則 議員

福知山市は人口約7万4千人、面積は552.54km²、京都府の北西部に位置する。
一級河川由良川中流部の福知山盆地では、勾配が緩くなり水が溜まりやすく、下流部では勾配が緩やか、かつ狭長な谷低平野となっていることから、中下流部に位置する福知山市では、水害が頻発している。

そのため、令和元年度から2年度にかけて「福知山市避難のあり方検討会」を設置し、市民の避難に対する意識のあり方や、避難行動に繋げるための情報発信のあり方、要配慮者の避難支援や避難所運営等も含めた避難のあり方全般について、今後の対応策の検討が行われた。

その後、避難のあり方検討会最終とりまとめで定めた今後の方向性に基づき、地域で作るマップを通じて避難スィッチの設定や、福知山市防災アプリ、防災行政無線等による地域ごとのきめ細やかな情報発信、車中泊避難イベントなどさまざまな取り組みを進めていた。

神戸町は比較的、災害が少ない地域だが、いつ起こるかわからない災害に備え、対策していかなければならないと思った。



福知山市



奈義町

奈義町は人口約5400人、面積は69.52km²、陸上自衛隊日本原駐屯地、日本原演習場が行政区の約2割を占める。
現在の人口を維持することを目標として掲げ、子育て支援施策、住宅施策、魅力ある教育、就労の場の確保施策など、さまざまな対策に取り組み、令和元年には合計特殊出生率2.95を記録。奈義町は「奇跡のまち」と呼ばれるようになった。

子育て支援施策を23事業、その内14事業は町単独事業として実施し、手厚い支援を行っていると感じた。特に、大学等卒業後に町内に居住すること、最大全額の返済免除となる奨学育英金の制度は興味深かった。

地域と子育ての拠点施設である「なぎチャイルドホーム」も見学した。子育て世代が気軽に通える施設として開放し、育児相談、地域住民による子

どもの一時的な預かり、保護者と保育士による当番制の自主的な保育活動を行っており、町民同士で支えあう子育てサポート体制ができていた。

さまざまな取り組みは、町民へ安心感をもたらしていた。誰もが安心して子育てできる環境を目指し、参考にしていきたいと思う。

「持続可能な議会」の確立を目指す美咲町議会

議会改革特別委員会 副委員長 小川 榮一 議員



美咲町は、岡山県の中央部に位置し、面積は神戸町の12倍の232.17km²、人口は約1万2千人で、高齢化率は約41%（神戸町約33%）の山間部の静かな町である。町には、西日本最大の養鶏場があり、「卵かけごはんの発祥の地」を町のキャッチコピーにしている。

美咲町議会の「デジタルバイト対策」は、全国町村議会議長会から議

会改革の先進事例の一つとして紹介されている。そこで、その取り組みの詳細を聴くため、今回の視察を計画した。

美咲町議会の議員数は、14名である。今回の視察の説明に議員が7名、事務局2名の計9名で取り組みの説明ならびに質問に答えていただいた。

視察のテーマである「デジタルバイト対策」は、情報通信技術（ICT）を使いこなせる人とそうでない人の格差をできるだけなくす施策をいうが、美咲町議会では、紙媒体・デジタルをはじめ多方面から情報発信をしている。

その背景にあるのは、美咲町議会が「持続可能な議会」、「誰一人取り残さない議会」をめざしていることにある。

そのため「デジタルデバイド対策」だけでなく、

議会の持続性・開放性を意識した数多くの取り組みをしている。今回の研修では、具体例を25項目に分けて詳しく説明していただいた。

説明を聴いていて学ぶ点が多くあった。例えば、委員会終了後は、議員間で感想を述べあう時間を設け、率直な意見を出し合うため、相手の発言を否定せず、相互理解や情報共有に努めていることや、北海道栗山町議会の議会改革など、他の議会から学んだことを積極的に取り入れていること。また、開かれた議会をめざして、小・中・高・大学の学生と交流をもち、住民との会話も大切にしていることなどである。

美咲町議会の議員は、熱量が高く我々を横断幕で出迎え、そして送り出してくれた。このような出迎えは、初めての経験であった。

また、自分たちの実践報告ばかりでなく「神戸町の取り組みも教えて欲しい」と謙虚な姿も印象的であった。

今回の視察で感じたことだが、議会改革とは、一般的に議会運営・組織・制度を改善していくことをいうが、美咲町議会の取り組みを聴いて、議員同士の議論から議会文化を高めていく取り組みではないかと感じた。



【岡山県 津山市】

津山市の住民主体の介護予防の取り組み



民生文教常任委員会



津山市は、岡山県の北部に位置し、江戸時代は10万石の城下町であった。面積は神戸町の26倍の506.33km²、人口は約9万4千人で、高齢化率は約31%の都市である。今回の視察のテーマは、「津山市の介護予防の取り組み」である。津山市は全国から注目を集める独自の介護予防の取り組みをしている。

津山市の介護予防対策

で気づいたことを3点にまとめてみる。

一点目は、介護で使われる言葉を「再定義」していることである。

例えば、「介護予防」の言葉を、津山市では「健康支援」の言葉に置き換えている。置き換えることによって、「どうすれば健康に過ごせるか」という前向きな捉え方になる。「介護」の言葉だけでなく、「健康」などの言葉も「身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態（WHO）を「健康」とは、からだと心と、周りの人との関わりがよい状態」に換えることによって、イメージがはっきりし、やる事が明確になる。

二点目は、行政のリーダーではなく、あくまでも住民主体で取り組み、行政は支援に徹することである。

津山市の介護予防の中心になるのは、高齢者が容易に通える範囲内にある「通いの場」である。市内211カ所の「通いの場」が、体操や交流の場として住民主体で運営されている。

なお、この事業は住民主体の運営であるため、体操に使う器具だけが行政として予算化されている。

三点目は、事業の継続性を大切にするところである。

継続の一番のポイントが「住民に続けさせる」ではなく、住民がつづけたいと思える支え方を考えること、そのためには「支える人を支える」が必要になる。住民のリーダーの声を聴き、聴いたことに答えること、リーダーを徹底的に支え続けることが継続性の力になるとしている。

今回の津山市の視察では、大きなインパクトを与えられた。特に、事業説明をされた地域包括ケア推進室の安本氏の専門的知見に裏打ちされた熱量の高さに感銘を受けた。福祉事業でのヒューマンパワーの力の大きさを改めて感じる事ができた。

また、津山市の事例から、住民自身が主体的に取り組むことは、住民自身の健全性を向上させるとともに、国民健康保険・介護保険の健全性も向上することが分かった。この取り組みは、行政・住民双方がWin-Winの関係になる取り組みでもある。

議会の動き（8月～10月）

10月

1日（水） 西南濃管内町議会議員
研修会・交流会
14日（火） 広報編集特別委員会
全員協議会
21日（火） 広報編集特別委員会

9月

1日（月） 第7回定例会（初日）
3日（水） 民生文教常任委員会
4日（木） 総務建設常任委員会
5日（金） 連合審査会
10日（水） 第7回定例会（一般質問）
11日（木） 第7回定例会（議案審議）
19日（金） 全員協議会

8月

19日（火） 議会運営委員会
21日（木） 全員協議会
市町村議会議員セミナー
30日（土） 東海環状自動車道
（本巣IC～大野神戸IC間）
開通式典



市町村議会議員セミナーに参加

8月21日（木）OKBふれ
あい会館において市町村議
会議員セミナーが行われた。
武庫川女子大学経営学部
金崎健太郎教授を講師に迎
え、「これからの地方議会へ
の期待～人口減少時代を見
据えて～」について講演を聴
いた。



性顕寺 本堂

ふるさと再発見

表紙の写真は、神戸町末守の性顕寺の「鐘楼」
です。昭和33年9月30日に町重要文化財に指定
されています。

回廊周囲の勾欄の外部、軒廻りの彫刻は、実
に繊細巧緻を極め、室町末期頃の彫刻工芸の粋
を遺憾なく発揮した見事な建築美を示し、様式
は室町期の特徴をそのまま伝えています。

性顕寺は昔、川西村の東、下宮へ通じる道の
北側の野部という地域にあり、後に末守村へ移
転しました。この鐘楼は野部にあった当時、勸
学院の鐘楼を移築したものです。

12月定例会のお知らせ

☆会期の日程

12月 1日（月） 開会、議案の説明
12月 10日（水） 一般質問
12月 11日（木） 議案の審議

☆場所 役場3階 議場

☆時間 午前9時30分から